

長崎大学大学院多文化社会学研究科発足記念シンポジウム

新アジア学・ 日本学の創成

—長崎からアジア、そしてグローバルな普遍性を目指す—



基調講演：呉 密 察 台湾国史館館長
毛里 和子 早稲田大学名誉教授

2018

8/4 土 13:30~17:30

場所：長崎大学グローバル教育・学生支援棟4階
文教スカイホール

入場
無料

申込不要



主催：長崎大学大学院多文化社会学研究科
共催：国立歴史民俗博物館、東洋文庫

「新アジア学・日本学の創成」

【趣旨】

長崎大学は平成30年度、多文化社会学という新たな学問領域の探求を目指して、大学院(修士課程)多文化社会学研究科を発足しました。新研究科の発足を記念し、アジア世界と日本の相関によって複雑に織りなされる社会現象を、長崎の歴史的な経験知をも継承しながら、解明するための「新しいアジア・日本学の創成」をテーマにシンポジウムを企画しました。既存の学問を超えて、日本とアジアを、グローバルという重層構造の中に位置づけた、新たな視点について議論します。



(多文化社会学研究科長 首藤明和)

日時：8月4日(土)13:30～17:30

場所：長崎大学グローバル教育・学生支援棟4階 文教スカイホール

プログラム

■ 進行：近江 美保 長崎大学大学院多文化社会学研究科教授

■ 挨拶

下川 功 長崎大学理事
ポイケルス ハルメン 蘭ライデン大学招聘教授
斯波 義信 東洋文庫常務理事
西谷 大 国立歴史民俗博物館副館長

■ 趣旨説明

首藤 明和 長崎大学大学院多文化社会学研究科長

■ 基調講演

呉 密察

「アジアの中の台湾・日本学」

台湾国史館館長。

台湾大学文学部卒、東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了後、台湾大学文学部副教授、同大教授、台湾歴史博物館館長などを経て現職。著書に『台湾近代史研究』(1991年)、『一個台湾人的日本経験』、『台湾対話録』、『日本観察 一個台湾的視野』(1992年)など。編著に『台湾史小事典』(2007年、第3版2016年)、『記憶する台湾 帝国との相剋』(2005年)。



毛里 和子

「新しいアジア学・中国学」

早稲田大学名誉教授。

専門は、中国政治と外交・東アジアの国際関係。早稲田大学政治経済学部元教授。著書として『周縁からの中国 民族問題と国家』(2004年)、『現代中国政治』(1993年)、『現代中国政治 第3版グローバル・パワーの肖像』(2012年)、『中国政治 習近平時代を読み解く』(2016年)、『日中漂流 グローバル・パワーはどこへ向かうか』(2017年)。2011年、文化功労者。



■ パネルディスカッション

司 会：首藤 明和
パネリスト：平野 健一郎 東洋文庫常務理事
後藤 真 国立歴史民俗博物館准教授
劉 傑 早稲田大学社会科学総合学術院教授
森川 裕二 長崎大学大学院多文化社会学研究科教授

■ 閉会の辞 片峰 茂 長崎大学学長特別顧問(長崎大学前学長)

ACCESS MAP

※駐車場はございません。
公共交通機関をお使いください。

